

半導体業界PRへ

「共同受注団体
「IJO」」

ロゴマーク作製



歯車とパズルデザイン 施設掲示、名刺に使用

【北上】 半導体製造大手のキオクシア岩手（北上市）から業務を共同受注する団体「IWA TE JOINT ORDER（IJO）」は、新たにロゴマークを作製した。作製の依頼を受けた市内福祉施設からIJOへの引き渡し式が2日行われ、関係者は受注する地場企業の裾野拡大など半導体業界の発展を期待した。

IJOは、2023年からキオクシア岩手から半導体製造装置のメンテナンス作業などを請け負っている企業グループ。同市を中心に花巻、奥州各市にある企業や事業所合わせて8社が共同で受注している。



これまでIJOにロゴはなく、共同受注団体として一体感を醸成するためロゴを作製することにした。誘致企業から作業受注しているIJOの輪を地域貢献活動を通じてさらに広げようと、北上市二子町の障害福祉サービス施設・北上アビリティセンターにロゴ作製を依頼した。

新たに作製されたロゴは、歯車とパズルのピースを組み合わせたデザイン。歯車は人材と協同、パズルは多様性と共存を表している。キオクシア岩手の業務を地場企業が人材、技術の面で支え、一緒にたつて半導体業界を盛り上げたいというのの願いが込められている。

引き渡し式は関係者約20人が出席し、同市大通りのくさのイン北上で行われた。北上アビリティセンターの赤坂良幸所長は「ロゴデザインを通じて、新たな価値を生み出すIJOの一助になったことを誇りに思う。関係の豊かさを育みながら新たな価値の創造と地域が潤う仕事を手掛けていきたい」と喜び、IJOを代表しNSテクノサービス（同市）の高橋利昌社長は「この地でメイドイン岩手の花を咲かせ、日本、世界へと広がることを期待す

る。今後は県内全域に仲間を広げて半導体業界を盛り上げていきたい」と意欲を示した。

IJOは、同市村崎野地内に4月開所した「いわて半導体関連人材育成施設」の協賛団体で、今回作製したロゴを同施設に掲示したほか、構成各社が名刺などに使用しアピールしていく。